

山岸会と「灯台」の印象

ヘレン・スティーヴンソン
マリエッタ・スティーヴンソン

山岸会「こは」養鶏有名だが、僕が訪れた時にも、鶏の鳴き声は耳にしたが、臭いは全然なかった。特別なエサのためらしい。うにも思えるのだが...

はなのだということを知らるために出て行くのだ。彼らは、自分達で学校・子供の家・農業センターを持つている。

独特の養鶏法だけでなく、山岸会には独自の思想がある。僕には初めどうも考えがなかわからなかった。今でもよくわからないけど、特講に参加したので、彼らが、既成概念を取り除こうとしてる... 知識を得ることにはできた。特講は、一日に十五時間のディスカッションを、一週間続けるというきつめのスケジュールだった。テーマのひとつに「何故我々は怒りを感じるのか」というのがあった。その後僕には、少なくとも怒るのに理由なんてないというだけではわかった。しか

毎朝夕、礼拝堂で礼拝をあげる。朝はとも早く五時半からで、僕にはひどくつらかった。その後朝食を済ませてから、八時に仕事に出かけるまでは、僕には今までそういうことが少なく、いつもなら又寝てしまふところなのだが、今回はすばらしい風景のその辺を散歩することにしていた。シヤカイモ・イチゴ・トマトの畑があり、そんなにきつくなかった。だから、僕は、そこが気に入ったのかもしれない。なにしろ、僕は、なまけ者だから。夕方からは、別に何もすることがなく、よく電車

「こは」は、京都のはずれの美しい場所にある。別にどんな宗教でも受け入れられているのだが、宗教的な「コミュニオン」としては、そこの人達は、よく京都市内なんかへ出て行くが、それは働くためではなく、人間は、お金のために働く必要

一般的見方では、ヒッピー・コミュニオンのようなが、そこでは、非常に日常的なものと、自由な空間を見ることかできた。ある者は苗を蒔き、ある者は赤ん坊のおしめをかえ、又ある者はバッチ作り... 私めは洗濯の手仕いと子供の遊び相手。その晩は、四畳半の裸電球の自称カメラマンの下宿へ。翌日、厚木振出塾に。広い農家に十人近くの若者と、原さん一家が共同生活しておられた。やはり備七の話が出た。どうして、もつと一緒に一・二耳できなかったのかと。私もそう思った。夜は、近くの川原で大花火大会があり、私は、マイク口の運転手に早変わり。皆百田の小さいを楽しそうに使ってました。又行きたい所だ。%、急用の為、帰阪した。帰りは、例によって三十円で帰ることができました。ハイ。

体験的共同体論

近藤保義

あつちこつちの巻

今夏、私は12号の予告どおりに、会社を首になり長い休暇を持った。%現在、今だに、失業金の暮しだ。もちろん、弥栄へは最初に行った。%、尾関・大原西氏と共に。しかし遠い山奥って感じは、備北程感じさせない。すぐ前の道を材木車が降りて行くからだ。ベンを含めた例の四人と共に、メイタケの木々木運びをした。夕食は一番腹の減った者、つまり私が作った。言わずと知れた麦飯とミン汁にツケ物である。この時は皆真剣な顔だ。特にベン等は、夜の二

あまり興味を見い出せなかった。私は、備北百人巻のテーマソングに、合わないのかも。私の中には常にある。俺は常駐者でないじゃないか!! 常駐者の意見が、第一重要視という考えた。引越しも、手と足を提供しただけだ。自分が常駐者の場合もそうありたいからだろうか? 帯在中、台所の改修と、ペンキ塗り、使つぼ堀りの作業をした。転安出頭の関係で、早めに大阪までヒツチを帰った。夜中のヒツチは、特講並に疲れる。%、キッズ協会に寄り、夕食を高校の級友ととり、晩は、名前のない新聞のPパッチ様んちにやっかいになる。もちスティーブンスの手仕いをする。彼らの意欲的な活動には、ただだモウ!! 絶対おもしろい新聞だ。翌日は、ドロコウちゃん、立川のハウスコミュニオン。我が家へ行く。